

鳥獣被害対策の本丸

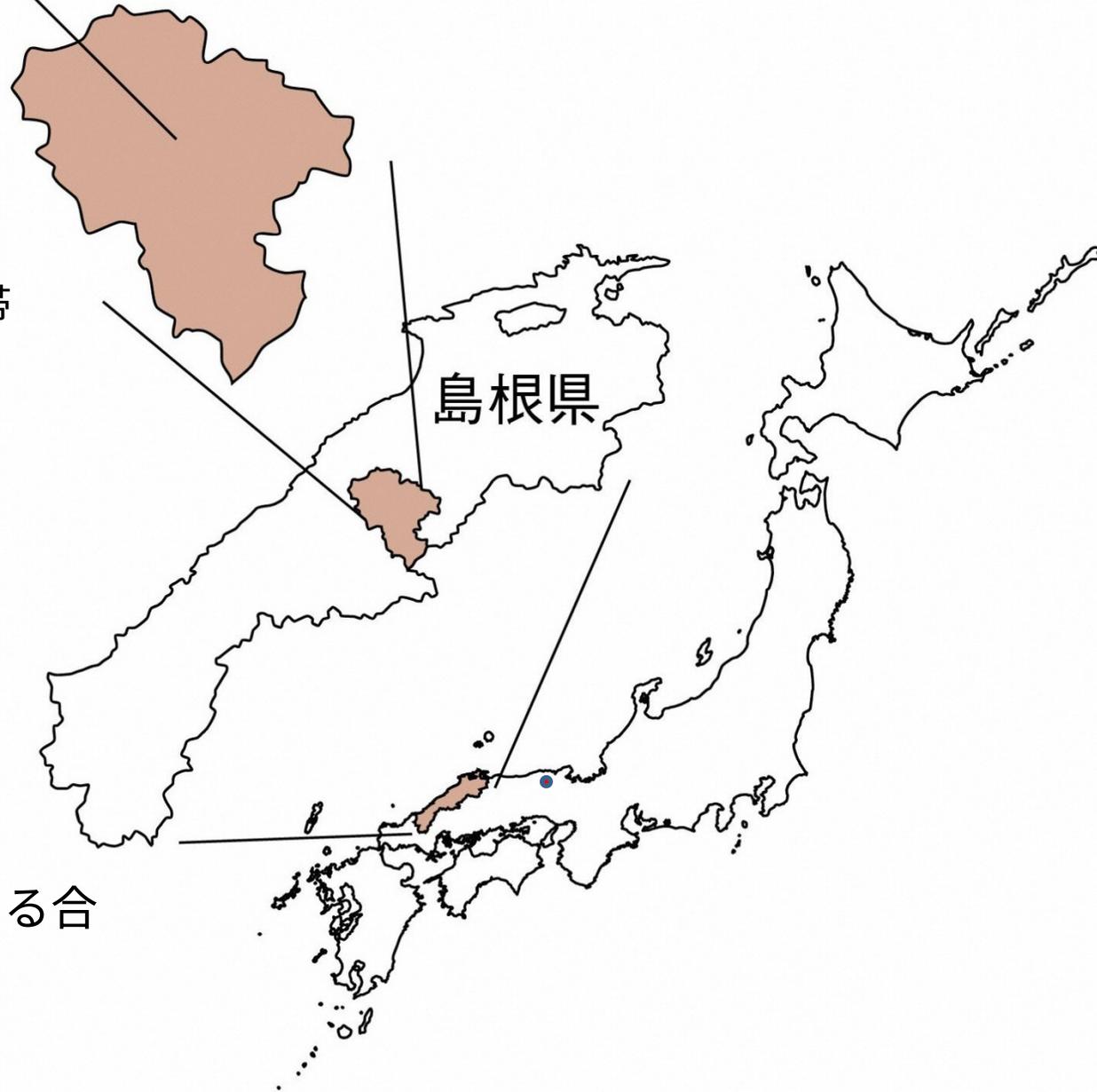
～鳥獣との闘いから過疎・人口減少の波との闘い



美郷町

MISATO TOWN

面積	282 km ²
世帯数	1,985 世帯
人口	3,956 人
<small>(R7.11.1現在)</small>	
高齢化率	48.3%
森林面積	88%

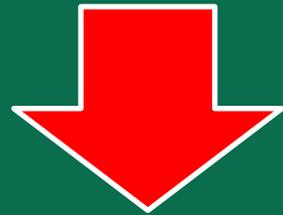


2004年10月1町1村による合併
邑智町・大和村



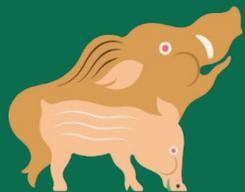
おおち山くじら物語のはじまり

1997(H9)～1998(H10) 邑智町企画課



「この町の地域おこしとは…？」

1999(H11) 産業振興課 異動







おおち山くじら物語

1999年(平成11年)～

- 第1章 (点) 鳥獣被害対策の抜本的改革
- 第2章 (線) 夏イノシシ資源利活用
- 第3章 (面) 地域づくり・コミュニティビジネス
- 第4章 定住・雇用・ローカルビジネス

● 第1章～第3章 内発的取組、第4章 共発的取組

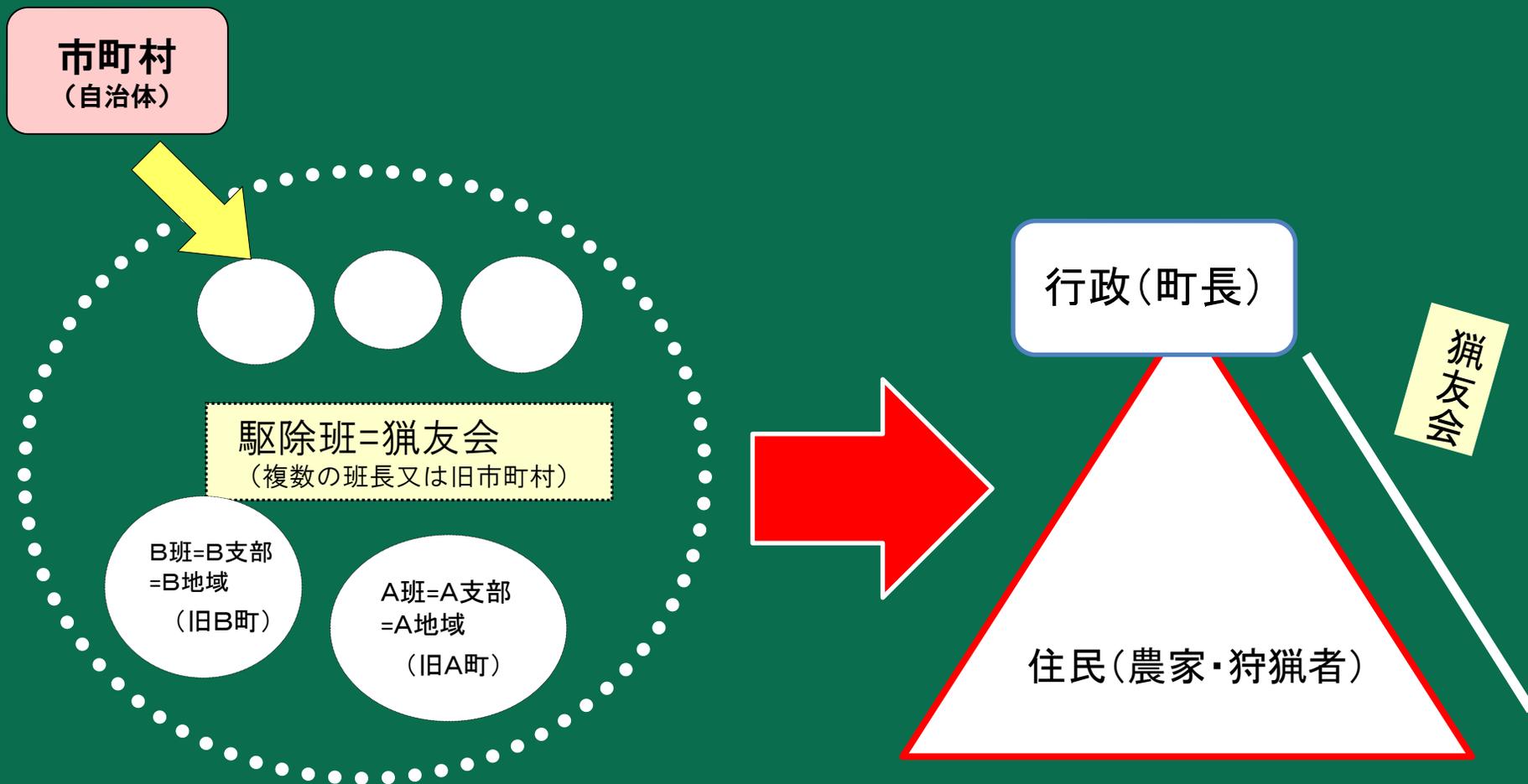


● “人”に焦点をあてた取組み “人間模様”
鳥獣被害対策 = 人対策 → 人おこし、地域おこし

第5章 美郷バレー構想 (2019年～)

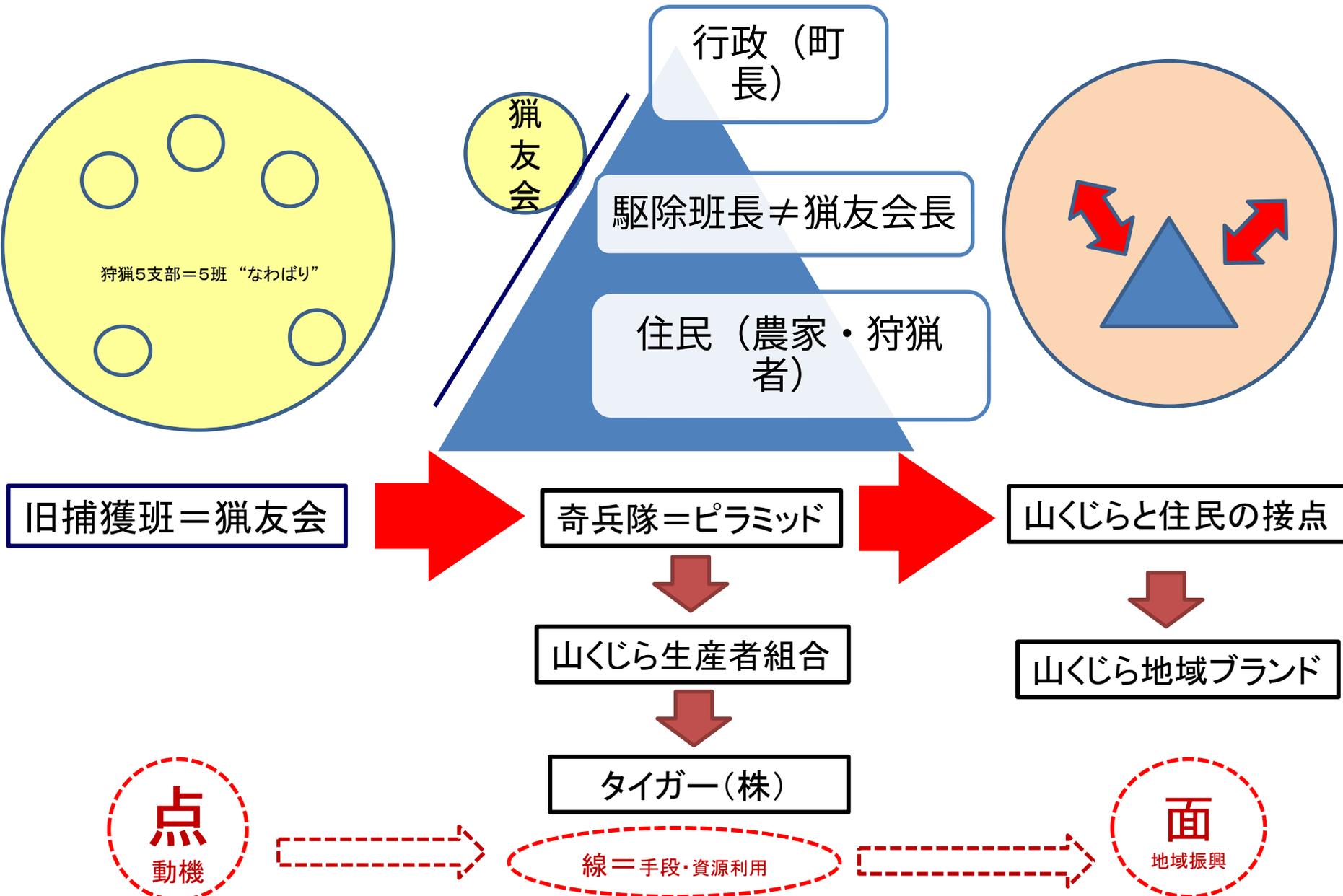
● 鳥獣被害対策の基本理念を共有する町外の力を呼び込み、
町の新たな力に変えていく環境づくりを展開

鳥獣被害対策の捕獲と狩猟の混同を線引き

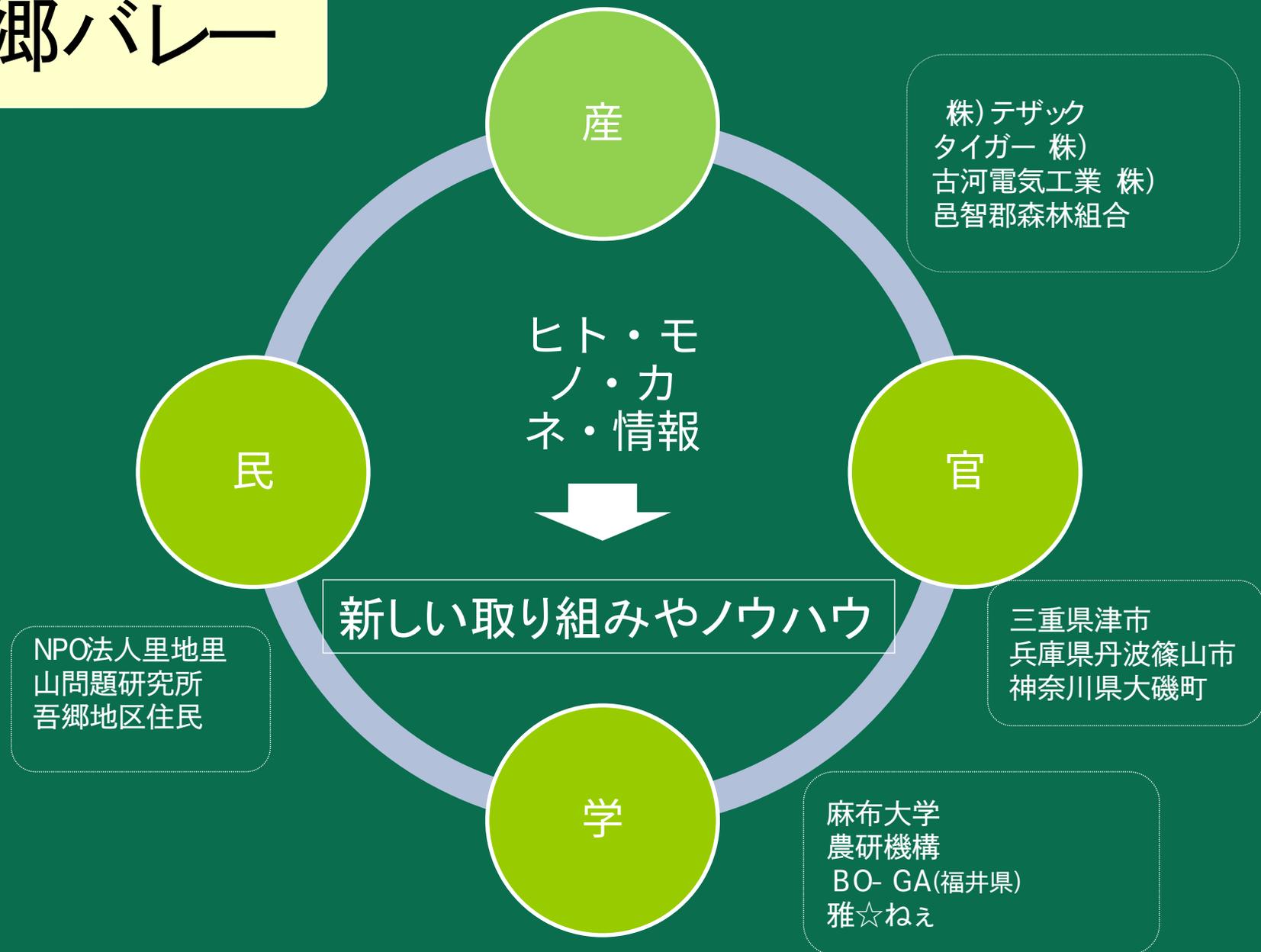


ミスマッチの解消

おおち山くじら物語 ～第1章～第4章～



美郷ノバレ



鳥獣被害対策の形骸化

鳥獣被害対策におけるニーズとシーズ

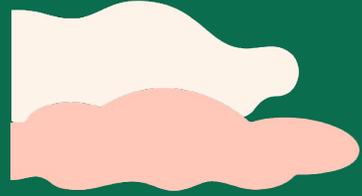
① 農業者の求めているもの … 農林作物の収穫
そのための手段＝獣害対策

② 大学等研究機関・企業 … 技術・研究・開発
手法

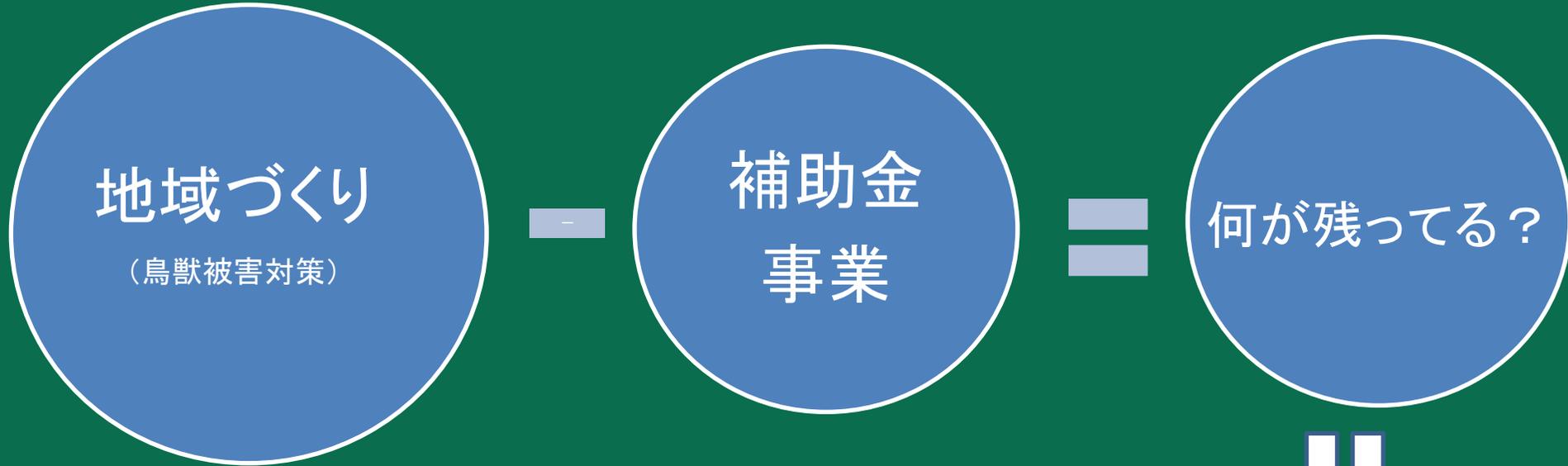
ニーズとシーズがかみ合っても解決しない…なぜか？

なぜか？ “野生動物に焦点を充てていること”
施策 “カネとモノで解決”・利害関係





私の地域づくりの診断書 “身の丈”



持続可能＝時代の変化に強い

個性
強み

山くじら地域ブランド→美郷バレー構想



美郷バレー＝鳥獣被害対策版シリコンバレー

美郷町の鳥獣被害対策に関する最先端の情報・技術や人脈、それらを活用したビジネス、地域活性化のノウハウに惹かれ、産官学民が自発的に集う環境づくり



猟友会主体から農業者主体の駆除へ【鳥獣被害対策の抜本的改革】（夏イノシシの駆除）



駆除したイノシシを利活用（生体搬送し、精肉へ）
特産品「山くじら」の誕生



地域で鳥獣被害に強い畑づくりを**実践**。皮革製品の創作グループも誕生。



山くじらを販売する**企業の誕生**と地域おこし協力隊の**定住**



これまでの取組に賛同した産官学民が美郷町に集まる。
「美郷バレー構想」の誕生



美郷バレー参画企業による様々な取組の展開と幅の広がり（ドローン、鹿肉活用、鳥獣被害対策製品開発など）

美郷バレーの進化

美郷バレーの真骨頂 産官学民が知恵を絞り、新たな町の魅力づくりと持続可能な地域振興、課題解決型のビジネスチャンス



(株) テザック 大阪
 タイガー (株) 大阪
 古河電気工業 (株) 東京
 邑智郡森林組合



鳥獣製造機器メーカー進出



島中・大田高校生「地域学習」 バレー企業就職



ドローン活用による林業省力化



獣害対策・豚熱イノシシ処理・捕獲の担い手・シカ対策

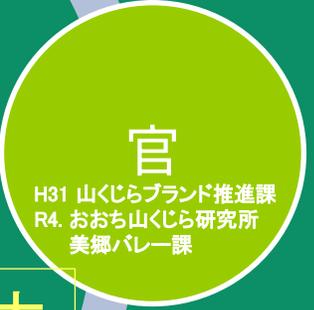


“食育・食農”“ジビエ給食”山くじら学習



NPO法人
 里地山問題研究所
 (兵庫)
 BO-GA(福井)

共創による取組の幅拡大
 ノウハウの蓄積



H31 山くじらブランド推進課
 R4. おおち山くじら研究所
 美郷バレー課



電気柵支持具の共同開発

活動人口・滞在人口の拡大

R2 43件 244人 宿泊者数 30人122泊 ※コロナ禍
 R6 137件 663人 宿泊者数196人 719泊 購買率92%

三重県津市
 兵庫県丹波篠山市
 神奈川県大磯町



麻布大学フィールドワークセンター誘致(同大本学初の教育研究拠点)



麻布大学 神奈川)



麻布大学生が滞在・地域と交流、美郷バレー協定企業就職、町移住、滞在人口拡大



大磯町「セレクトショップ」特産販売



大磯高校・町内飲食店ジビエ料理学習

鳥獣と人間の闘い



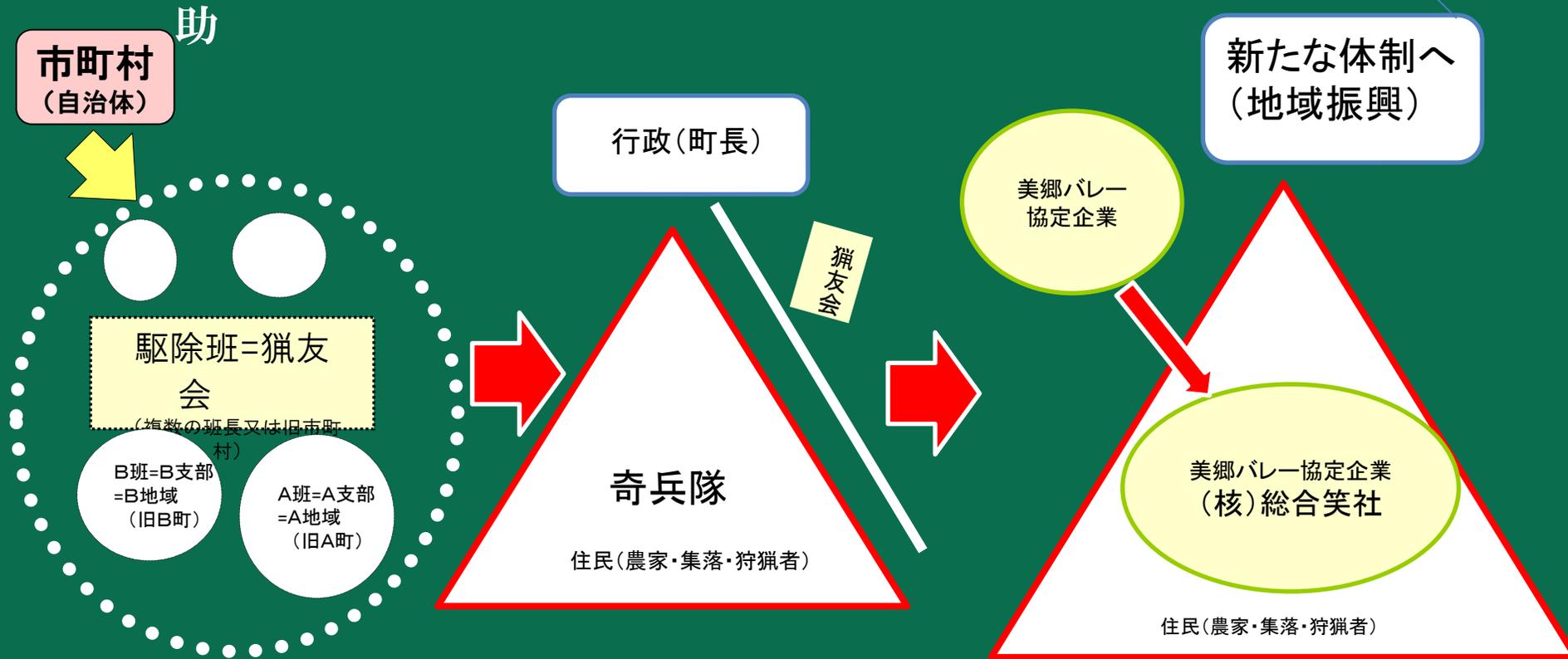
過疎・人口減少の波との闘い

- 成熟した地域・高齢化を前提にした暮らしの事業展開
- 依存体質による失った自立や主体性の喪失を再生

鳥獣被害問題を鳥獣被害対策で解決する時代ではない
“人”に焦点をあてた取組み

“共創” 新たな体制の構築へ

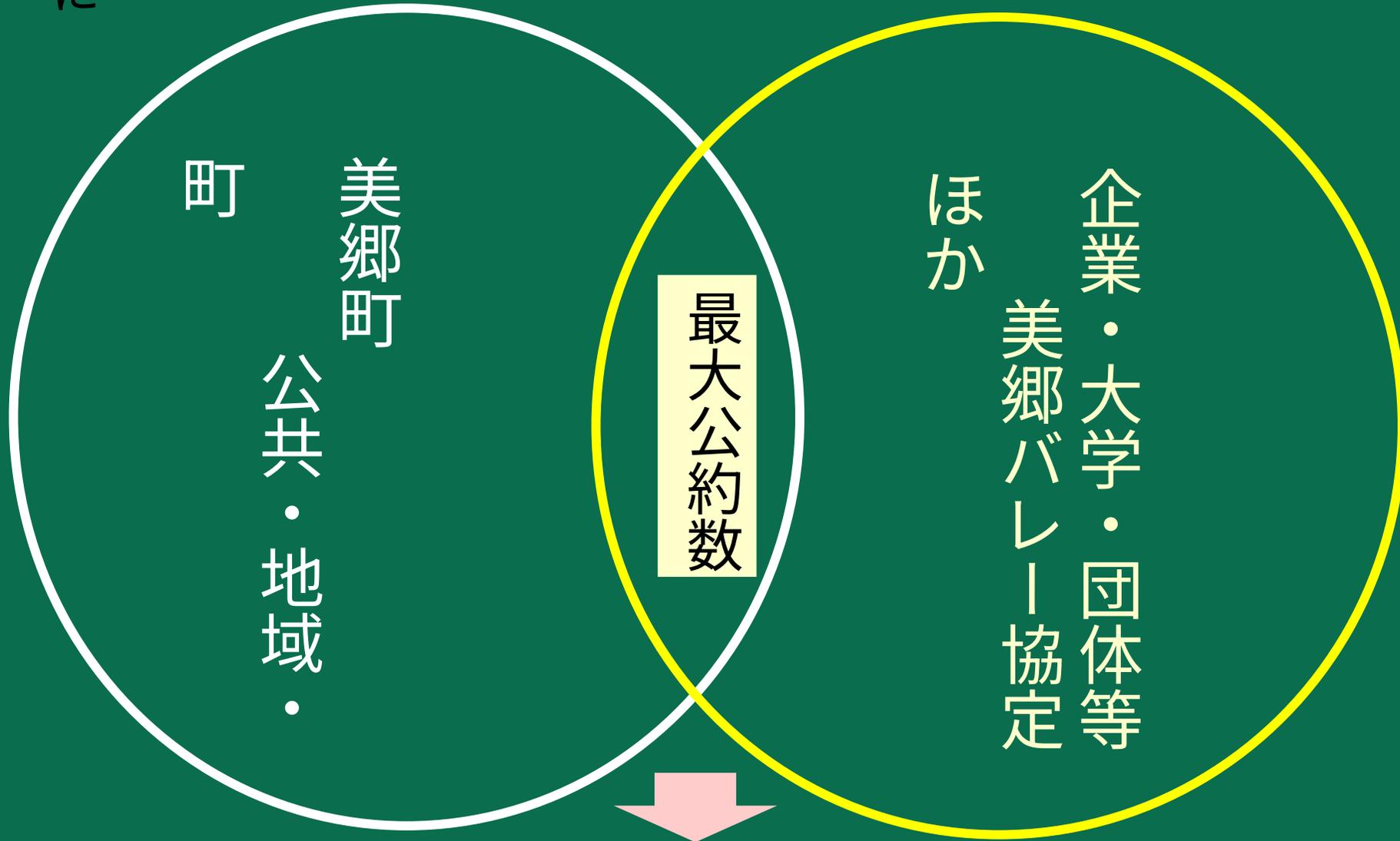
人口減少・マンパワーをどうするか・・・自助・共助＞ 公



クマ・シカ・イノシシ(豚熱対策含む)
捕獲・処理・利活用から新たなビジネス、
持続可能な地域づくりへの取組

人口減少・将来の担い手不足 マンパワーの解消

鳥獣被害対策の本丸＝過疎・人口減少の波と戦い抜くため
に



外部の力・ノウハウ・ビジネス的手法による活動の持続と広がり、分野の広がり

美郷バレー・きゃらバン

外部の力「美郷バレー」を地域の力、そして新たな町の資源に

美郷バレーの企業・団体・おおち山くじら研究所が鳥獣被害対策や生涯学習等を通じてノウハウや情報を提供しながら、地元と一緒に地域の個性の掘り起こしや、地域の主体的活動をさらに促し、地域づくりにつなげる支援活動



鳥獣被害対策
農家と柵の設置指導



ふるさと学習 (山くじら学習)
地元小学校の野菜づくり体験など



生涯学習 探求学習
小中学校、高校、集落やグループ

新たな課題 豚熱感染 (家畜伝染病)



視座

家畜防疫



鳥獣被害対策



ジビエ

ジビエ事業者

美郷バレー 活動人口・滞在人口の拡大



美郷バレーの新たな進化・林業分野への波及

① ドローンの活用による林業省力化実証試験から実用化へ

➔ 林業従事者の林業労働環境の改善
作業効率化

共創 : 古河電工(株)、タイガー(株)、
邑智郡森林組合、美郷町



② 旧JR三江線沿線 鉄道林再生実証試験による搬出技術の検証

➔ 鉄道林の森林活用、全国のローカル線廃止後の活用モデル

共創 : 広島大学、鳥取大学、JR西日本
(株) ※本社、ジェイアール西日本コンサル
タンツ、邑智郡森林組合、美郷町





今年の10月第一週
『美郷バレー・山くじらフォーラム』
を開催します。
是非、お越しく下さい。
お待ちしております。

